



Race Report

09 May, 2012

2012年スーパーGTシリーズGW決戦 GT3初投入のA Speed、決勝5番グリッドを獲得

【公式練習】 ■天候：雨 コース：ウェット 気温/路面温度 (開始時) 14°C/16°C (終了時) 16°C/18°C

2012 AUTOBACS SUPER GT SERIES第2戦「FUJI GT 500km RACE」の舞台は富士スピードウェイ。GW真っ只中という事もあり、スタンドには多くの観客が詰めかけた。

この第2戦からNEWマシン「vantage GT3」を投入してきたA Speed。シェイクダウンは直前に鈴鹿で済ませてきたものの、実戦レベルでの走行はこの日のフリー走行が初めて。しかも最初の公式セッションとなったフリー走行は前日から降り続く雨の影響でコース上に多くの川が流れるような悪コンディション。WET宣言が出されたこのセッションは各車ともにウェットタイヤでのコースインとなった。しかしこの悪コンディションには各陣営共に悪戦苦闘。開始17分程でダンロップコーナーへの進入でNo.4 GSR ProjectMirai BMWがクラッシュ～赤旗が出されたのを皮切りに、その30分後に今度はGT500クラスのNo.35 KeePer Kraft SC430が2コーナー立ち上がりでスピン、ガードレールにリヤを接触させてストップ～セッションは再び赤旗に。さらにその後走行再開となるも13分後にNo.5 マッハGoGoGo車検Ferrari458が第2コーナー出口でコースアウト～クラッシュ。これで3度目の赤旗が出され、GT500とGT300の混走セッションはこのまま終了する事に。さらにその後GT300の占有セッションが始まるも、今度は開始4分程でNo.31 apr HASEPRO PRIUS GTが第1コーナーでコースアウト。これでこの日4度目の赤旗が出される事に。これが処理されセッションが再開された時点で残り占有時間は8分。すると最後はこの短い時間で上位陣の順位が目まぐるしく入れ替わっていく。ここで見事なタイムをマークしたのは今回がデビューレースとなるtriple a vantage GT3。走行距離はあまり稼げなかったものの、タイム的にはいきなりの3番手タイムをマークし、午後に行われる公式予選に向け、弾みを着けるポジションでフリー走行を終了する事となった。

【Q1】 ■天候：雨 コース：ウェット 気温/路面温度 (開始時) 17°C/20°C (終了時) 17°C/20°C

午後に入り迎えた公式予選セッション。今回の予選はまず予選1回目が行われ、そのトップ10が後のスーパーラップ(SL)に進出する事になる。この予選1回目でtriple a vantage GT3のアタックを担当したのは吉本大樹。「予選開始前から雨量が減りだしていたので、コースイン直前まで深溝タイヤで行くか浅溝タイヤで行くか悩んで、とりあえずアウトラップで判断するとして浅溝でコースインすることを選びました」という吉本は、「アウトラップの時点では大丈夫かとも思ったけど、確信が持てなかった」と、一旦ピットに戻り深溝タイヤにスイッチする事を選択。タイヤを履き換えすぐさまコースへと戻っていく。ところがコースに戻った吉本を待っていたのはコース上丸々1周に渡り流れ出ているオイルの川。各マシンのタイムの出方から計測一周目がベストと思われる展開の中、triple a vantage GT3はまだアタックをしていない状態。これにはさすがの吉本も「正直かなり焦った」と、SL進出が難しくなったかに思われた。ところがこの苦しい展開の中、新車「vantage GT3」と吉本大樹が底力を発揮する。何と吉本自身も「ミラクル」と表現したラップで8番手のタイムをマーク。「同じような状況でトップ10に入れなかった強豪もいたし、とにかく危なかった(吉本大樹)」という展開ながら、見事SLへの進出を決めて見せた。

【SL】 ■天候：雨 コース：ウェット 気温/路面温度 (開始時) 18°C/21°C (終了時) 19°C/21°C

その後行われたSLでtriple a vantage GT3のステアリングを握ったのは星野一樹選手。この時点で雨量は徐々に減っていく方向になっており、当然後からの出走になればなるほど有利なコンディションとなる。そんな状況の中、星野選手の出走は10台中3番目。しかし星野選手はこのアタックで出し得るベストなタイムをマーク、最終的に見事2つポジションをアップする6番手タイムをマークして見せる。さらに予選終了後の再車検で3号車が失格となった事で、翌日の決勝は5番手グリッドを獲得。triple a vantage GT3はデビュー戦での初表彰台獲得が視野に入るポジションから翌日の決勝を戦う事となった。

12' SUPER GT SERIES Round_2 / Fuji Speed Way

2012.5.3 (Thu) Free Practice & Qualify

Text : www.hiroki-yoshimoto.com

PERSONAL SPONSORS

PARTNERS



Race Report

09 May, 2012

A SPEED & 吉本大樹、 triple a vantage GT3でのデビューレースで、3位表彰台を獲得

【決勝】 ■天候：小雨→曇り→小雨 コース：セミウェット&ドライ 気温/路面温度 19°C/23°C

前日の予選では苦しい展開の中で5番手グリッドを手にしたtriple a vantage GT3。さらにこの日朝に行われたフリー走行では、コース上にまだ水が残っている状況で何とトップタイムをマーク！決勝に向け大きな期待を抱きスタートの時を迎える事となった。

今回のスタートを担当したのは星野選手。するとその星野選手は、直前に小雨がぱらつき始めた影響でセーフティーカー先導からのスタートとなったこのレース序盤を、冷静かつ攻めの走り切り抜けていく。セーフティーカー先導中にほぼ全車がピットイン、タイヤをインターミディエイトへと変えていったこの混乱のスタート直後のポジションは、トップからNo.88 マネパランボルギーニ GT3 (青木孝行選手)、その後ろにNo.15 ART TASTE PORSCHE (ヨルク・ベルグマイスター選手)、No.11 GAINER DIXCEL R8 LMS (平中克幸選手)というトップ3。triple a vantage GT3は最初のタイヤ交換でポジションを2つ程落としていたものの、「朝のフリー走行の時と似ていた」というコンディションの中、星野選手が力強い追い上げで一気にポジションを取り戻していく。するとその後レースも10周程進んだところで徐々にスリックに交換するマシンが出始める。

レースは9周目にスリックタイヤに交換したNo.15がトップに立ってレース序盤を引っ張る展開となり、これに数十秒遅れてNo.11と triple a Vantage GT3が続いていく。その後星野選手はスリックタイヤに交換後も追い上げの手を緩めず一気に2番手にまでポジションアップ、逆にNo.15は徐々にラップタイムが落ち始めルーティーンストップの為にピットへと入っていく。これに対し周回を重ね傷んだタイヤでもNEWタイヤのNo.15のペースを上回るラップタイムをマークしていたtriple a vantage GT3は、その後しばらくコース上にステアアウト、ピットインを少し遅らせてその後吉本大樹にドライバーチェンジを行っていく。この時点でトップのNo.15との差は約30秒程。ペース的には若干NO.15を上回っていたものの、吉本の脳裏には「15号車のアベレージが落ちてくるであろうスティントの後半で仕留めよう」という思惑が。しかしこの直後、その思惑が全て無に帰すアクシデントが起こってしまう。何と58周目のストレート後半、ドライバー交代を行った後も事実上のトップを走行していたNo.15が突如姿勢を崩してコントロールを失い、マシンはピット出口付近のガードレールに激しくヒット。幸いドライバーの命に別条はなかったものの、この救出とマシン回収のためコース上にはセーフティーカーが入る事になり、これが後のレース展開を大きく左右する事になっていく。

今回はレース中に最低2回以上のドライバー交代をする事が義務付けられているが、SGTではレース中に一人のドライバーが走行しても良い周回数に限りがあり、裏を返せば、二人で走る今回のレースではどちらか片方のドライバーが走行しなければならない最低周回数も存在する事になる。つまり、最初にドライバー交代をしてからこのSCのタイミングまでにその距離をクリアしていれば、このSCのタイミングでドライバーを交代~そのまま最後まで走り切るという作戦も可能であったが、結果として最初のスリックタイヤへの交換時にドライバー交代を行っていたチームはこのタイミングでドライバー交代を行う事が可能となり、A Speedを含む、最初のタイミングで交代を行っていなかったチームはこの時点でドライバー交代をする事が出来ず、この後にもう一度ピットに入る事を強いられるという展開となってしまった。

この状況にトップの吉本は再スタート後に猛然とブッシュ。この時点では見た目上のトップにはいたものの、結局はこの後にもう一度ピットに入らなければならない。そのマージンを稼ぐ為、吉本は他のマシンよりほぼ毎周1秒速い1分42秒台のラップタイムを立て続けにマーク、ファステストラップも塗り替えながら周回を重ね、2番手を30秒以上突き放したところでピットイン。最後のドライバー交代を終え、後を星野選手に託していく。しかし流石に30秒のマージンではポジションを守る事は叶わず、星野選手は4番手でコースに復帰。最後の追い上げを期し猛然とスパートをかけていく。すると最後の最後でtriple a vantage GT3に追い風となる展開が待っていた。なんとレースも終盤に差し掛かろうかというタイミングで空から雨が落ち始める。このコンディションをスリックタイヤで攻め抜いた星野選手は、一時40秒以上あった3番手との差を毎周2秒以上ずつ縮めていき、見事3番手にポジションアップ。最後は2番手のNo.2 エヴァンゲリオンRT初号機アップル紫電にわずか1.5秒届かなかったものの、混乱のスタートから難しい展開の続いたレースを3位でフィニッシュ。A SPEED & 吉本大樹 & 星野選手は見事vantage GT3でのデビューレースで初表彰台を獲得、次戦以降にも大きな期待を抱かせる内容で、この第2戦を終える事となった。

12' SUPER GT SERIES Round_2 / Fuji Speed Way
2012.5.4 (Fri) Final
Text : www.hiroki-yoshimoto.com

PERSONAL SPONSORS

PARTNERS



Race Report

09 May, 2012

吉本大樹コメント

結果的にはSCのタイミングや最初のドライバー交代のタイミングさえうまくハマっていれば勝てたレースだったことは間違いありません。それだけマシンのバランスは良かったしヨコハマタイヤも素晴らしいパフォーマンスを発揮してくれていました。間違いなく我々は一番速かった。

結果的に悔しい3位でしたが、Vantage GT3のデータも乏しい中、しかも初めてまともに走ったドライコンディションがレースとあれば、これ以上の結果を求めはいけないくらいの結果だったと思います。

マシンがチームに届いて2週間弱でここまでマシンを仕上げたエンジニアやメカニック、イギリスのAMR (Aston Martin Racing) とのやりとりで寝る時間をも削って行ってくれた瀬口監督、スポンサーのtriple a出版様、そして熱い走りを披露してくれた星野選手に感謝するとともに、次戦のセパンでは更に上のポジションでチェッカーを受けたいと思います。



PHOTO



PERSONAL SPONSORS

TWS

Corniche

S&I

VAPSn XPEL
Car Protection Specialist

esprit Car Beauty Factory

金剛防災

PARTNERS

PL0T2

Arai

SIDEWINDERS

HY SPEED